

キーワード： 中途視覚障害者、メモ装置、6点入力

理療教育課程における学習支援システム(6点入力式メモ装置)の開発 ノート・テイキングに苦慮する中途視覚障害者向けメモ装置の開発

なんのための研究？

- ・当センター理療教育課程における学習時に、点字や普通文字、パソコンでの文字入力に困難を有し、ノートテイキングに苦慮する入所者の学習支援システムの構築を目的としています。
- ・新たなノート・テイキングツールを開発し、学習方略・普及に関する指針を得るものとします。

研究の背景(実態把握調査)

- ・当センター理療教育課程入所者を対象に主として学習手段を調査
- ・高齢化、全盲者の減少傾向、糖尿病性網膜症者の中・高齢層への集中と視覚障害の重度化
- ・使用文字は学習手段の多様な組み合わせで支えられていることが明らかになっている

研究のポイントは？

- ・高機能化を追求せず、6点スイッチによる文字入力と他の4点スイッチとの組み合わせによる簡単な編集機能のみ搭載しています。入力内容はメモリに保存し、読み出すことが可能です。
- ・パソコンとUSBケーブルで接続することで保存内容をキーボードの代わりに入力することもできるように開発を進めています。



実用化に向けて

- ・教室間の移動を考慮して、軽量・小型化を目指しています。
- ・電源を入れると直ぐに起動するので、操作を開始するまでの待ち時間はありません。
- ・音声辞書を搭載していないので、入力した文字を滑らかに読むことはできません。今後の課題となっています。

- ・W160mm×D100mm×H約30mm
- ・重さ約380g
- ・バッテリーに充電
- ・連続使用4時間を目標

研究代表者

国立障害者リハビリテーションセンター
研究所 伊藤 和幸 itoh-kazuyuki-0923@rehab.go.jp
理療教育部 伊藤 和之 itou-kazuyuki-0303@rehab.go.jp

